

2022年3月17日  
日本ガス協会

## **日本ガス協会 本荘会長 会見発言要旨**

### **<はじめに>**

昨夜、福島県沖を震源とする最大震度6強の地震が発生した。被害にあわれた方々には心よりお見舞い申し上げます。なお、地震発生後すみやかに日本ガス協会内に対策本部を立ち上げ、情報収集を実施したが、これまでに供給停止等の大きな被害は報告されていない。ガス業界としては、安定供給に向け、今後も地震対策への取り組みを継続していく。

また、現在ロシアによるウクライナ侵攻に伴い、LNG需給や価格上昇への懸念が続いている。現時点では、各社がLNGの安定調達に取り組み、供給に支障はないが、日本ガス協会としては情報把握に努めるため、2月25日に「ロシア・ウクライナ情勢に伴う原料調達に関わる情報連絡本部」を設置した。

今後も、ガス事業者各社や資源エネルギー庁と密に連携を図りながら、状況を注視してまいりたい。

### **1. 2022年度 日本ガス協会事業計画**

業界を取り巻く環境としては、カーボンニュートラル社会実現に向けた官民の取り組みが進展するなか、ガス事業者への期待も高まっている。また安定供給やサイバーセキュリティ対策など、エネルギーセキュリティ・レジリエンスの強化に対する社会的な要請もさらに高まるものとする。加えて大手ガス事業者の導管部門の法的分離など会員事業者の経営構造の変化などもある。

このようななか、ガス事業 150 周年を迎える 2022 年度を、次世代熱エネルギー産業への転換とさらなる発展に向けた新たな一歩を踏み出す節目の年として、カーボンニュートラルチャレンジ 2050 アクションプランの具現化への取り組みの加速、ガス事業の基盤となる安定供給・安全確保への取り組み、地域脱炭素・地方創生に向けた会員事業者の活動支援などを推進していく。

具体的には次の 5 項目に取り組んでいく。

1 つ目は、「カーボンニュートラルチャレンジ 2050 アクションプランの具現化」。天然ガスへの燃料転換や高度利用を通じた着実な CO<sub>2</sub> 削減・エネルギーセキュリティ強化への貢献やメタネーション技術の確立に向けた業界大での推進、カーボンニュートラルガスの環境価値獲得に向けた取り組みを進める。

2 つ目は、「レジリエンスの更なる強化」。安定供給やサイバーセキュリティに資する国・事業者等との連携強化、保安レベル向上支援、スマート保安の導入推進、また激甚化する風水害や地震等の自然災害に向けた対策の一層の強化を進める。

3 つ目は、「地域脱炭素・地方創生への貢献」。会員事業者の支援や情報発信・水平展開手法の強化や、会員事業者が自治体との連携を通じた取り組みを推進できるよう支援する。

4 つ目は、「情報発信・対外活動の充実化」。ガス事業の持続的な成長に向けて政策・制度議論へ積極的に関与するとともに、広報活動の強化など情報発信や対外活動の充実化に取り組む。

最後に、「組織基盤の整備・強化」。会員事業者の経営形態多様化への対応やデジタル技術の活用による効果的・効率的な事業運営などにつとめていく。

## 2. 新コンセプトワードの導入

都市ガスのカーボンニュートラル実現に向けた取り組みを伝えていく新コンセプトワードとして、「ガスで実現するサステナブルな未来」という意味を込めた「G o ! ガステナブル」を導入し、会員事業者での活用を進めていく。

ガス事業開始から 150 周年を迎え、さらなる未来への飛躍に向け、業界一丸となってチャレンジしていくための「合い言葉」として、このコンセプトワードを広く使っていきたい。

## 3. 2025 年大阪・関西万博へのパビリオン出展内定

2 月 10 日にプレスリリースを行ったが、2025 年大阪・関西万博において、パビリオン出展が内定した。

パビリオンでは、都市ガス業界のカーボンニュートラル実現に向けた未来への挑戦や、地域や暮らしに寄り添い続ける姿勢の発信を通じて、次世代を担う子供たちにエネルギーや暮らしの未来のワクワク感、希望を共有し、その未来に向かって一步を踏み出すきっかけを作っていきたい。

出展の具体的内容は、今後、日本ガス協会内に設置した大阪・関西万博推進委員会にて検討を進めていく。

以上